

## MOVIE

### 『ラジオ・コバニ』

瓦礫と化した街に届ける復興の息吹

シリア北部のクルド人街コバニはIS（イスラム国）の占領下となったが、クルド人民防衛隊による迎撃と連合軍の空爆によって解放され、人々は瓦礫と化した街に戻ってきた。そんな中、大学生ディロバンは生き残った人々の声を届けるラジオ番組「おはよう コバニ」を始め、街は希望と連帯感を取り戻してゆく。本作は、戦闘真ただ中の2014年から、コバニに復興の光が差し込み始めるまでの3年間を追ったドキュメンタリー。監督は短編映画『スナイパー・オブ・コバニ』（2015年）で世界的にブレイクしたラバー・ドスキー。本作を兵士として戦死した姉に捧げている。



2016年 / オランダ / 69分 / クルド語  
監督・脚本:ラバー・ドスキー  
出演:ディロバン・キコ  
公開:5月12日(土)より、アップリンク渋谷、ポレポレ東中野ほか全国順次公開  
配給:アップリンク  
<http://www.uplink.co.jp/kobani/>

## EVENT

### 『ラオスフェスティバル 2018』

見て聞いて味わって、ラオスをまるごと楽しむ2日間

テーマは「日帰りで行けるラオス」。ラオスフードにビア・ラオはもちろん、ステージパフォーマンスや、民族舞踏のレクチャー、ラオシルクの物産店など、盛りだくさんのコンテンツで、とことんラオスの魅力を感じられる2日間。本イベントは高校生たちがラオスに学校を建てる取り組みからスタートし、文化だけでなくラオスの現状や現地NGOを紹介する場にもなっている。会期中は、乾季の終わりに行われる雨乞いの行事「ロケット祭り」を再現したパレードや、僧侶が幸運の祈りを込めて手首に糸を結ぶ儀式「パーシー」も行われる。家族みんなで、ラオスを体験しに出掛けてみてはいかが。



会期:2018年5月26日(土)・27日(日)10:00~19:00(雨天決行)  
\*両日ともパーシーは終日、パレードは正午~夕方間に3回開催予定。  
場所:代々木公園イベント広場(東京都渋谷区)  
問:ラオスフェスティバル実行委員会事務局  
TEL:03-6276-3090  
<https://laos-festival.jp/>

## 新着情報

# イチオシ!

## BOOK

### 『3つのゼロの世界』

人類が直面している“症状”に  
ソーシャル・ビジネスという処方箋

昨年、世界で最も裕福な8人が世界人口の下半分にあたる36億人に匹敵する資産を保有しているとの推計が発表された。格差の拡大や排外主義、環境破壊といった既存社会の“機能不全”はどうすれば解決できるのか。貧困者のための銀行・グラミン銀行を創設し、母国バングラデシュの貧困を大きく軽減した功績によりノーベル平和賞に輝いたユヌス博士は、本書でソーシャル・ビジネスの創出と金融システムの再設計を柱とした、新たな経済創造の具体策を語る。無私の起業家たちのエピソードの数々は、貧困ゼロ・失業ゼロ・CO2排出ゼロの世界がけっして夢物語ではないことを教えてくれる。



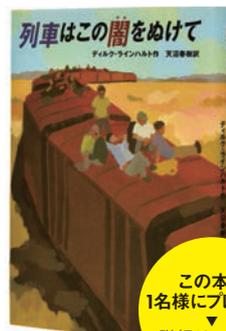
ムハマド・ユヌス 著  
山田文 訳  
早川書房  
2,052円(税込)

## BOOK

### 『列車はこの闇をぬけて』

世界でもっとも豊かな国を目指す  
「世界でもっとも危険な旅」の物語

米国に出稼ぎに行ったきりの母を追い、14歳のミゲルは故郷グアテマラを出てメキシコに向かう。国境で目的地を同じくする4人の仲間と出会いメキシコを縦断する旅が始まるが、飢えと寒さ、追いはぎ、身代金目当てのギャングなど、さまざまな困難がふりかかる……。メキシコ南の国境を越えて北の米国を目指す未成年は毎年およそ5万人。アムネスティ・インターナショナルが「世界でもっとも危険な旅」と呼ぶその道程では、移民を狙った犯罪の標的になり、命を落とすこともめずらしくないという。メキシコを旅する子どもたちの体験談をもとに書かれた本書は、過酷な現実と対峙する若者たちの存在感が読む者を圧倒する。



ディルク・ラインハルト 著  
天沼春樹 訳  
徳間書店  
2,268円(税込)

この本を  
1名様にプレゼント  
▼  
詳細はp.38へ